

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記六）】			
事業所番号	4270500491		
法人名	医療法人 牧山医院		
事業所名	グループホーム・ライフ		
所在地	長崎県大村市宮小路2丁目1408番地		
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果市町村受理日	令和6年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

診療所併設で外に出ることなく医院とつながっており医師・看護師との連携がしやすく、医療的なケアを迅速に対応でき利用者様が安心して過ごせる。その他にも、作業療法士による機能訓練や協力歯科による口腔機能向上、薬剤師との連携を取りながら支援している。

古民家を改装している為、在宅から来られた利用者様にも自宅にいるような空間で生活を送ることができる。

消防訓練の際には、地域の消防団に応援を要請し訓練をおこなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の医療機関や通所施設に併設されたグループホームであることから、日常的に医療や地域住民と関わる機会が多く、入居後もかかりつけ医による体調管理や体調変化への迅速な対応につなげる強みがある。入居者は通所施設や受診帰りの機会に面会を受けることも可能であり、自宅を離れても身近に地域や友人との関係を継続できる。母体法人では業務改善委員会や教育委員会、安全対策等専門員会の設置があり、職員の学びや業務に主体性を持って取り組んでいる。課題が発生した際には部門を超えて多職種と意見交換ができ、各記録物の整備状況からも現在の状況を把握し今後活かされていることが窺える。入居者や家族との更なる信頼関係の構築や職員の意識の向上、地域とのつながりの強化と目標を明確に掲げられており、今後の取り組みが期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム・ライフ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	診療所併設とゆう安心感のもと、連携を取りながら利用者様がゆったりと楽しく生活が送れるように支援し、管理者・職員はその理念を共有し実践につなげている。	ホームでは廊下に理念を掲示し、職員は常時理念の振り返りを行っている。新規採用職員にはベテラン職員と3か月間の業務の同行で支援の考え方を学び、実践における入居者との関りの中で理念の確認を行っている。日頃から入居者への関わりを大事にし、入居者が自分らしく生活できるよう支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花祭りや敬老会に地域の方々の参加を促していたが、感染予防の為、今現在は各ホームでの行事の行いとなっている。消防訓練の際には、近隣の消防団に参加していただいている。	法人は地域の中の医療機関としての役割を担っており、日頃から建物周辺の掃除や入居者との散歩の機会であいさつを交わし顔が見える関係を構築している。今年度はボランティアや地元高校生の実習受け入れもあり、地域に対し、認知症ケアの拠点として介護の専門性を活かした取り組みに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	牧山医院と合同の避難訓練を年2回おこない、訓練を通じて認知症の方の理解を深めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和4年度は書面での開催だったが、令和5年度はメンバーを集め牧山医院の会議室を借りて開催をしている。いろいろな意見をミーティング等を通じて職員間でも共有している。	今年度は対面での運営推進会議を再開し、行政や民生委員、町内会長や家族等、それぞれの立場より意見を聞く機会を持つことができた。地域代表には運営状況の確認と共にホームの構造や機能の理解につなげている。会議では項目毎に参加者へ問いかけ、意見交換が活発に行われるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿介護課とは運営推進会議を通じてホームの状況を説明し、いろいろな意見をいただいている。 その他にも、大村市より介護相談員とボランティアの方の訪問があり、利用者様と会話をしケアサービスの取り組みを伝えている。	運営推進会議を通して市町村担当者と関係性を築き、何気ない会話や雑談からホームの現状を伝えている。平常時の確認や、困りごとが発生した際など相談しやすい関係を築き問題解決につなげている。現在ホームでは大村市の委託事業で認知症ホットライン事業所を設置し、市民へのサポートに取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒リスクの高い利用者様のみ家族様より、同意をいただき感知式センサーを使用している。ミーティングにて感知式センサーの必要性を話し合っている。 身体拘束の勉強会を通じて職員間での話し合いをおこなっている。	運営推進会議と同時開催で身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束のない支援が適正に行われているか多角的な視点で確認を行っている。現在の支援の状況や問題点の把握がなされ、今年度はスピーチロックについての研修を行った。言葉遣いや弊害について振り返りや対応を意識し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	身体拘束適正化に向け、年1回の研修の機会や会議の開催など虐待防止に向け取り組んでいる。令和3年度介護報酬改定に係る基準等の変更に伴う虐待の防止のための措置に関する事項を踏まえ、今後、運営規程に「虐待の防止のための措置に関する事項」を明記し取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の状態を皆で共有し変化が無いかを確認をおこない、虐待が無いか常に注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間でも内容を理解されていない職員もいるので研修や勉強会を通じて学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に管理者が契約をおこない、文面のみならず事業所の特性を交えながら説明をおこない、質問やわからないことを訪ねながらおこなっている。法改正の際には書面にて説明・同意を頂き、質問等があればその都度、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置している。 要望や相談があった際には、職員で話し合ったり必要であれば牧山医院とも話し合い対応している。 相談や苦情を言いにくい際には、外部の相談窓口があることを契約時に説明している。	定期的なホーム便りや運営推進会議録の送付を通じてホームの運営状況を報告し、入居者の体調や日頃の過ごし方等、面会・電話で丁寧な報告を心がけている。入居者が食事量を減少した際には、自宅での関わり方や家族の要望を確認し、主治医と相談しながらその方にとって最良の方法で支援できるよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行ない、利用者様についてや業務について意見をだしあっている。その他にも、管理者が職員に対して個別で何かなかったか尋ねたりしている。 牧山医院の業務改善委員会にて代表者、事務長、各部署の管理者と意見交換をおこなっている。	管理者は介護職として入居者の状態や業務の状況や課題を把握し、母体法人との調整を図りながら入居者の生活や業務改善に取り組んでいる。心身に変化が生じた際には職員で話し合い、支援の手順や方向性の確認を行っている。母体法人には安全対策や広報、事故報告等委員会の設置があり、部門を超えて多職種の意見を聞く機会もある。会議後は知見の共有ができ人材育成に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、評価表を管理者が作成し代表者に提出している。 希望休や有休が取れるように勤務表を作成し、勤務体制も職員間で話し合いながら、可能な限り意見を取り入れて、プライベートと仕事が両立出来る様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内に教育委員会があり、コロナの状況を考慮しながら開催し参加している。院外の研修にも募集があった際には参加できるように勤務の調整をおこなったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大村市のグループホーム連絡協議会が2ヶ月に1回おこなっており、その中で情報の共有や事例検討会などで意見をいいあっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様や家族様からなどの心配事や不安、希望などを聞き、安心感が持てるような生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの状況を説明すると共に、家族様の要望や意見を聞き気軽になんでも話せる関係性を作れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様と家族様が必要なとしている事を傾聴し取り入れ、本人様の置かれている状況を理解し必要なサービスを取り入れられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来る事えお見定め、洗濯たみのお家事や新聞折等を職員が共に話しながらおこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナが終息してきたので面会が出来るようになっている。面会の際に状況を説明したり、要望があればおやつ等を持ってこられ食べられたりしている。 その他にも利用者様の好物を食べていただきたいと話される家族様は、持ってこられ、食事の際に食べられたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外でも事前に申請してもらおうと面会は可能である。 今現在、病院に通院されている近所の方の面会があり、感染対策をしながら、居室で昔の話などで盛り上がり話されている。	病院や通所施設併設のホームである強みを活かし、家族や友人の面会をできるだけ受け入れ、共に過ごす時間を大切に支援している。遠方で家族との面会が困難な場合は、写真で近況報告を行いホームに関心を持ってもらう働きかけを行っている。本人より自宅へ帰省したい希望があった際には、個別支援で自宅訪問し寂しさに寄り添う支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様をなるべくリビングに誘導し、ソファーに座り横の利用者様と会話ができる環境を提供している。 食事の席を決める際も、トラブル防止に努めると共に、利用者様との関わりた持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時や退所時等、他の所に行く際には情報提供書を作成し情報共有をしている。 家族様にも不安にならないように、心配事や悩みを聞き入れ対応を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活で利用者様とコミュニケーションをとり、話を傾聴し可能な限り要望が聞き取れる様に支援をしている。 コミュニケーションが苦手な利用者様に関しても、家族様等から聞き取りを行ない、ミーティングで話し合いながら支援を行なっている。	入居前の担当ケアマネージャーから情報や事前に自宅を訪問し、入居者の暮らしぶりを把握している。本人の生活習慣や大事にしている思いなど、その方の理解に努め、個人記録には実際に発信した言葉やその時の表情を記録し、その時の心情の理解や本人主体の暮らしの実現に向け取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供表及びに、利用者様・家族様から今までの情報を聞き取りをおこない、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の1人ひとりの状態を個人記録に記録し、ミーティングの際に職員間で情報を共有し把握できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングをおこない、ミーティングにてケアプランの点検をしより良いサービスを提供できるように、計画担当者が介護計画に反映させている。その際、利用者様や家族様要望が取り入れられるように職員で話し合いケアプランに落とし込んでいる。	家族の要望や職員の意見を確認し、担当者が中心となって介護計画の原案を作成後、会議で話し合いを行い本人が日々の生活を通じて取り組みやすい内容で作成している。その日の介護記録は介護計画に沿った内容を記録し、介護計画の実施状況は家族にもわかりやすい言葉で報告がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記入し、利用者様の状態などをミーティングの際に話し合い情報共し介護計画書に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態を見ながら、利用者様や家族様の要望を聞き取り、新しいニーズが無いかをミーティングの際に話し合いながら可能な限り実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センターとボランティアの方々が定期的に訪問し利用者様と話しをしていただいている。 その他にも地域の高校生による職場体験を受け入れ利用者様と交流されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回、牧山医院より往診あり、必要に応じて適切な医療を受けられるように支援をし、他科受診の際には家族様にも受診の支援をしていただき必要に応じて職員も同行し対応している。	病院併設の事業所であることから、母体法人のかかりつけ医より月2回の訪問診療がある。日常的に主治医や看護師へ相談でき、早期対応に努めている。運営推進会議にもかかりつけ薬局の参加があり、適宜服薬状況の相談ができる事や年1回薬剤師との意見交換の機会があり、現状の確認や相談ができるなど適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設されている牧山医院の看護師に利用者様の状態が変化があった際などには、昼夜問わず相談や情報提供を密におこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供表や口頭にて情報交換をおこない、必要に応じ相談や支援をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族様より看取りの希望を聞き取りをおこない、看取り指針の同意書を記入していただいている。 利用者様の状況に応じ牧山医院と連携を取りながら家族様、本人様の要望を聞き取り支援している。	入居時に看取り支援の意思を確認し、入居後も体調の変化ごとに家族や主治医と対応の確認を行っている。入居者や家族にとって最良の看取りができるよう努め、医療との連携による強みを生かし、これまでも看取りの経験が多くある。家族の宿泊や面会時間を柔軟に対応し、看取りの時間も生活の場で家族や友人と共に過ごせるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院内の勉強会や消防署の救命救急を受けたりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練を他部署合同で取り組み消防団や地域の方にも参加していただいている。 男性職員が地域の消防団に入団しており、地域貢献と共に協力体制を築いている。	ホームでは法人全体での定期避難訓練を行っている。住宅地の一角にある地域の医療機関であることから、地域の消防団や住民との相互の防災への理解もある。日常的に火元の管理体制があり、業務日誌に記録し、職員への意識付けを図っている。避難訓練後には法人全体で反省点を訓練記録で共有し、次回訓練時に活かす取り組みがなされている。	BCPは現在作成中である。ホームは水害の危険区域にも指定されているが、昨年度は風水害訓練が未実施であった。災害発生時の初動動作の確認や初動対応について職員間で話し合いを行い、自然災害などのリスク発生時における対応策等、継続的な取り組みに期待する。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、言葉使いに気をつけ誇りやプライバシーを損なわない言葉使いを心掛けている。 身体拘束の勉強会を通じて、スピーチロックの勉強会をおこなっている。	職員は入居者の言動に注意を払い、本人の意思決定を大切にしない無理強いしない関わりを心がけている。今年度は「心の整え方」の外部研修に職員が代表で参加し、研修内容をホームの会議で共有した。スピーチロックの勉強会で身体拘束と虐待について学び、入居者の尊厳を大切にしたい関わりに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望や訴えを聞き取り、意思決定できるように支援している。その他にも家族様にも希望取り入れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床にや昼寝の時間帯は本人様の希望を優先している。入浴の拒否や残食など利用者様の状態を考慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理髪店の方が来所し散髪をおこなっている。洋服も本人様の希望が取り入れられるように支援し、家族様より新しい洋服の購入などしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を作成し、似たようなメニューにならない様に配慮し献立を作っている。家族様より本人の好物を食べてもらいたいという方には、家族様の提供により好きなものを週2～3回程食べられている。食事の準備も簡単な作業であれば利用者様と一緒に作成している。	調理担当者から手作りで調理された料理は適温食で彩りよく盛り付けされ、入居者も楽しい食事となっている。入居者自ら口に運びやすいよう軽量の食器を使用し、入居者ができる範囲の手伝いを担う場面もある。検食簿は毎食写真添付で可視化し、食事提供後の振り返りも行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎食、記録をとり把握している。食事量が少ない方に対しては本人様の好きなものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを利用者様の能力に合わせて支援をしている。 月1回の協力歯科医院により往診があり、状態の確認及びに、指導・助言をしていただく。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を使用し、長時間トイレに行かれていない方や、排泄パターンに合わせて声掛けをおこない、汚染回数をへらしている。夜間帯にも夜用のパットを使用することによりパット交換を減らしている。	排泄チェック表をもとに入居者それぞれに声掛け誘導を行い、排泄の失敗を軽減する取り組みがある。入院によって一時的にオムツ使用となった入居者も、移動や移乗介助を受けて排泄動作を取り戻し、リハビリパンツ使用へと回復できた事例もある。適宜排泄状況に応じた適切なパットの使用に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多く取れるような食事を提供したり、便秘がちな方に対しては、乳製品や野菜ジュースを摂取していたり、体操により腸の動きを活性化し自然便が出るように支援している。便秘が長く続くよう出れば牧山医院へ報告をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴ができるように支援している。 入浴前にバイタルチェックし利用者様の状態確認をおこない体調及びに、気分にて入るかの調整をしている。利用者様がゆっくりと入れる用に順番のも考慮し、浴槽内に1人介助で入るのが難しい利用者様には2人介助にて入浴していただいている。	入居者の身体の清潔やリラックス効果を目的に浴槽で温まっていただくことを大事にしている。入浴のタイミングや湯に浸かる時間など入居者本人と相談しながら本人の意思決定を大切に柔軟に対応している。入浴を拒む入居者には再度時間をおいての声掛けや対応職員を交代したりと、安心して入浴できるよう努めている。	現在脱衣室と浴室の温度差については、ヒートショック予防のため湯の蒸気などを利用し寒暖差に留意しているが、温度計など可視で確認できるものがなく、職員間の肌感覚での対応となっている。一定の基準を設け職員間で統一した対応ができるよう今後の取り組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの入眠時間を理解し対応している。季節や気候に合わせた寝具を使用し、毛布は自宅で使用されていた物を持ち寄っていたき、気持ち良く睡眠が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医院や薬剤師と連携を取り、変更があった際には職員間で情報共有するように努めている。薬のセットは薬剤師が個別にセットしていただいている。新しい薬などは副作用や服用時の注意点などの指導をうけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来る範囲で洗濯たたみ等をしていただき、自己重要間を高めていただいている。家族様より利用者様が作られた作品を飾らせていただいている。その他にも職員と一緒に昔の歌や映像を見て楽しく過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の体調や状態に配慮し、ドライブをおこなっている。外出が厳しい方に対しては職員が残り見守りをおこなっている。その他にも天気が良く散歩が出来る際には1人ひとり散歩に出かけている。家族様から外出の希望があった際には体調やコロナの状況などを医院と相談し許可をもらっている。	感染症予防の観点から制限していた外出も徐々に回復し、季節の花を鑑賞したりなじみの公園へドライブに出かけるなど入居者が五感で楽しむ取り組みがある。天候を見ながら日常的に地域の公園へ出かけ、子どもたちとの交流や、移動途中で畑の作物を眺め楽しむなど、本人の意欲を保つ関わりが持たれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様より、預り金をライフの金庫にて保管をしている。利用者様から購入の希望があった際には職員が購入したり、物によっては家族様に相談し購入していただいたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様や家族様から要望があれば携帯電話の所持が可能である。 定期的に家族様に写真を手渡し、希望があればキーパーソン以外にもライフ新聞や写真を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関には四季の花々や壁飾りなどで季節感を感じたいている。 共用の空間では快適に過ごせるように、気温に気をつけ利用者様が快適に過ごせるように配慮している。	住居を改修し設置された事業所であることから、窓からの採光やリビングの間取り等で家庭的な雰囲気を感じることができる。一部雑多な印象で整頓に課題も感じられるが木目調の家具やソファの配置で入居者へ温かな居心地のいい空間づくりがなされている。職員の得意分野が活かされた玄関の掲示物も入居者や来客者の目を楽しませる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のリビングにはソファを設置しており、利用者様が隣同士で話しや一緒に歌ったりレクリエーションができるような空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では家庭で愛用されていた物を持参していただき、思い思いの空間を作り、居心地良く過ごして頂けるように支援している。	入居前の事前訪問で自宅での暮らしぶりを把握し、家具や手回り品の設置など入居後も自宅での暮らしが継続できるよう支援している。本人や家族と必要な物を相談しながらの部屋作りとなり、それぞれに使い慣れた寝具や思い出の品が身近にある事によって本人の居心地のいい環境づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、風呂場に手すりを設置し、安全に生活ができるようになっている。居室前には利用者様の写真と名前を書いた表札を設置し居室を理解いただいている。		